



仙台ありのまま舎保育園
令和7年.8月号

真夏の日ざしが園庭を照りつけ、もうしばらくの間、暑さとお付き合いが続きそうですね。子どもたちは暑さに少し疲れ気味ですが、水遊びやお部屋で滑り台を始めると、声を出して笑いながら元気いっぱい遊びを楽しんでいます！しかし、お部屋の中でエアコンをつけ温度調節をしても子どもたちは汗びっしょり💦そのままにしているとあせもになります。濡らしたタオルで顔や体を拭いてお着替えをして過ごしています。おうちでも時々汗をかいていないか注意してみてくださいね。



(8月)	行事予定	(9月)
5日 身体測定		2日 身体測定
12日 不審者対応訓練		18日 避難訓練
21日 避難訓練		19日 お誕生日会
22日 お誕生日会		



8月のうた

「みずあそび」



夏のお出かけの注意



子どもは大人より体温が高く暑がりです。真夏に出かけるときは、できるだけ午前中か夕方以降にしましょう。いつも以上にこまめに様子をチェックし、水分は出かける前にとり、途中でも何度も飲むようにしましょう。ベビーカーや抱っこひもに熱がこもるの也要注意です。乳幼児用の保冷剤を背中に使用するのも熱中症予防に効果的です。



子どもたちだけで楽しそうに追いかけてっこをしたり、おもちゃと一緒に遊んだり、気の合う3人です
(^ ^)



・鼻の日

8月7日は鼻の日。鼻はにおいを感じるだけでなく、呼吸をするときにほこりや菌などが入らないようにするフィルターの役目もしています。鼻の不調は耳の異常などにもつながり、集中力も身につきません。おかしいと思ったら早めに診察を受けましょう。

・夏風邪に気をつけましょう

夏風邪は、夏場にかかるウイルス感染症の総称です。夏風邪を引き起こす原因のウイルスは、感染力が強い傾向があります。夏風邪の特徴は、発熱やのどの痛みなどの風邪症状に加え、手足や口内の発疹などの「皮膚症状」や結膜炎などの「目の症状」、吐き気・腹痛・下痢などの「胃腸症状」を引き起こすことです。

・夏の3大感染症とは

夏風邪はいくつかの種類の感染症が存在します。なかでも、次の3つが夏風邪としてみられるもので、夏の3大感染症とも言われています。

・咽頭結膜熱（プール熱） ・ヘルパンギーナ ・手足口病

咽頭結膜熱の症状の特徴は発熱（38～39℃）、のどの痛みに加え、目の白い部分が赤くなる結膜炎がみられることです。潜伏期間はおよそ5～7日で、発症から4～5日間は1日の体温が高熱と微熱との間を行ったりきたりする特徴があり、治るまでに比較的時間がかかります。

ヘルパンギーナと手足口病は、どちらもエンテロウイルス属に属するウィルスが原因で、口内に水ぶくれができるのも特徴の1つです。また、ウィルスが腸管内で増殖することによって胃腸炎の症状を引き起こすことがあり、夏場に「おなかの風邪」と言われるのはこれらの胃腸症状のことです。

夏風邪は小さい子どもがかかりやすいものですが、大人もかかることがあります。大人の場合は重症化するリスクが高いと言われています。小さい子どもがいる家庭では感染する機会も多いので注意が必要です。



お休みをお願いします

- ・37.5℃以上の熱がある
- ・前日38℃以上の発熱があった
- ・咳がひどい
- ・下痢の回数が多い（回数が少なくても水下痢の場合も）
- ・食欲がなくだるそうにしている
- ・鼻水が多く泣きやすい
- ・嘔吐している

このような場合、集団で長時間過ごすことが難しいサインです。様子を見て、早めに受診し消化の良いものを食べてゆっくり休んで体力回復に努めましょう。